

## 第4回北上市政策評価委員会会議録（要旨）

### 【行政評価検証専門部会】

日 時	平成23年10月6日（木）午後1時～5時
場 所	北上市市民交流プラザ
出席者	(1)委員 4名 佐藤徹部会長、岩淵公二委員、高樋さち子委員、西出順郎委員__（和田明子委員欠席） (2)事務局 (3)担当部課職員
傍聴者	なし

#### 1 議題

- (1) 各委員の評価内容の確認、意見集約（案件1、2、4）
- (2) 担当部との再質疑（案件3、5）

	対象案件
1	経営改革（公の施設の見直し）の考え方について
2	施策①高齢者が活躍できる場の確保について
3	施策②子育てと仕事の両立の支援について
4	夏油保養温泉専用水道の対応について
5	下水道事業の経営について

#### 2 会議の概要及び主な意見等

案件1、2、4について、各委員の評価内容の確認と部会としての意見集約を行った。また、案件3、5について担当部と再度質疑応答を行った。

##### (1) 経営改革（公の施設の見直し）の考え方について

[主な意見等]

- ・（外部評価で）市の方向性に対し一定の評価がなされたことをもって実施可とするものではない。付帯意見がどう担保されるかが心配なところ。
- ・付帯意見が多すぎると「概ね妥当」という評価にはならないのではないかと。
- ・文言として「妥当」「概ね妥当」という表現が入ると、それが一人歩きしてしまう可能性があるため、文面から評価を感じ取ってもらえるような表現にしてもらいたい。また、このシートにある各委員の意見は、議事録として公表されない部分も含まれているので、基本的に取捨選択せずに載せてほしい。似た意見を整理するのは構わない。

## (2) 施策①高齢者が活躍できる場の確保について

[主な意見等]

- ・他市の事例を見てみても、だいたい同じ指標設定になっている。ずっとこの指標できているようなので、時代にそぐわなくなっているのかもしれない。何か別の指標を設定する必要があるのではないか。
- ・施策全体の中で成果指標を設定するのが難しいということであれば、この施策の中で市が現在抱えている課題にフォーカスして、重点化して取り組みましょうという視点で指標を設定するのがセカンドベストだと思う。そうした指標の在り方も検討してみてもどうか。
- ・地域ごとの特色があるはずなので、その中でマイナスになっている部分をボトムアップしていくような目標設定にすると、ターゲットが明確になってくるのではないか。
- ・アンケートは回収率も良いので、さらに精査・分析すると評価シートに反映できるものがあるのではないか。
- ・進捗状況の評価は、判断するための情報が少ない、評価につながるような分析、課題把握が不足している、そもそもの成果指標の設定が施策の成果を把握しうるものになっていないといった理由から「評価できない」となると思われる。

## (3) 施策②子育てと仕事の両立の支援について

[主な意見等]

- ・施策全体を見て「概ね順調」という評価をしているということは前回お聞きしたが、待機児童の解消が最も大きなウェイトを占めているということになると、待機児童数ゼロという最終目標に対して現状と乖離があると感じる中で、外部評価として「概ね順調」という評価でいいのかという気がする。
- ・子育て支援という目的に対し、保育施設の整備だけでなく企業に対するアプローチやサポートが必要で、この施策の目標達成のためには両方の側面が見えてこないといけないと思う。
- ・施策全体の指標としては不足しているという印象。やっている事業を集合してみると（指標としては）このようになるのかなとは思いますが、やはり子育てと仕事の両立の支援ということであればもっと複合的でいろいろな要素があるので、この指標だけで目標の達成状況が「概ね順調」とは判断できない。

## (4) 夏油保養温泉専用水道の対応について

[主な意見等]

- ・行政が必ずしも経営主体にならない方策を検討すべきである。事業者が経営主体となった場合に市が補助金を支出して支援する手法も検討すべきではないか。

- ・仮に今の経営者が経営的に難しくなった時に、それでも市が乗り出して行って、北上市立とかで（施設を継続して）やっていくということであれば、観光政策上のウェイトが大きくなっていくし、行政が経営主体であることも方向性はずれものではない。
- ・観光施策上の位置づけをふまえた市の方針がもう少し表に出てきた方がよいと思う。
- ・便益分析を精査すれば市民の皆さんにお見せして納得してもらえる内容にはなると思う。その中で将来にわたってランニングコストを確保し続けていけるかが重要。
- ・いろいろな方法論がある中でそれらを検討した結果ということであればそれはそれでいいし、まだ検討してない部分があるのであれば、観光課と協議を進める中で、そういったことも含めて方法論として検討するというのがよいのではないかと。
- ・経営主体の問題は将来に及ぶことなので十分議論していただきたい。

## (5) 下水道事業の経営について

[主な意見等]

- ・毎年のランニングに対しては利用料でまかなえていない状況をどう改善していくか、中長期的な視点からの検討が必要ではないか。短期的に不足するキャッシュをどう埋めるかだけでは根本的な解決にはならないのではないかと。
- ・資金調達の方法や料金値上げの是非は、政策評価にはなじまないのではないかと。
- ・本来企業誘致政策や産業政策の中で一般会計が出すべきものが結果として料金の減額になっているという話なので、その金額をはっきり出すべきである。
- ・損益の問題とキャッシュフローの問題を整理すべきである。受益者負担、一般会計からの繰り入れの妥当性の観点から損益改善のための検討を加え、そのうえでキャッシュフローの手当ての方法について手法を検討すべきである。

## (6) その他（今後の進め方について）

[主な意見等]

- ・評価シートでは課題解決の検討、今後の方向性、総括コメントに記入欄が分かれているが、これまでの議論では課題提起と今後の在り方を一連の中で話し合ってきたので、（3つに分けると）重複する部分かなりあり、かえって分かりづらくなってしまっているのではないかと。それよりは出された意見を分類し、整理したものが上段にあって、それらを集約したものが総括コメントとして下段に続くようなスタイルだと分かりやすいと思う。一定の評価をするということであれば、おそらく付帯条件を付してという形になると思われるが、そこに至るバックデータとしても委員の意見が見えやすくなる。
- ・今のスタイルにこだわらずにまとめた方がいいと思う。情報の不足、整理の仕方といった内部評価シートに対するコメントと、市の方向性に対する評価（付帯意見）としてのコメントの区別ができていると分かりやすいと思う。

・限られた情報・期間の中で評価をしなければならない状況の中で、今年やってみて感じたことも今後の課題としてまとめてもいいのではないか。